

教材開発と構造体コーパス： 現状と課題

岸本秀樹
神戸大学

1

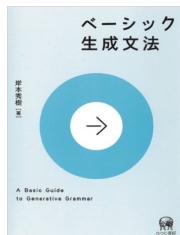
目標

- 教材の教授資料・練習問題を提供する
- 構造体コーパスのウェブページのアクセスを増やす
- 構造体コーパスの使用や検察を通じたデータの収集を初級者に促す

2

教材

- ベーシック生成文法（ひつじ書房）



3

教材開発（神戸大学ユニット）

ベーシック生成文法
日本語・英語を題材とした統語論の入門教材

- ウェブページでの練習問題の提供
- 英語版の日本語統語論入門出版

4

テキストの特徴 1

- 言語学の知識がない人あるいは概論程度の知識をもっている人のための入門書
- 用語の羅列はしない。基本的な考え方を文章で解説

5

テキストの特徴 2

- 基本的に一章を一コマでカバーすることを想定している
- 半期で終わるように15章立て

6

テキストの特徴 3

- 一章は、6 ページ（図などを入れても最大限 8 ページ）
- テキスト総ページ pp. 134

Radford (2009) *Analysing English Syntax*. pp. 438
Carnie (2012) *Syntax*. pp. 510

7

ウェブページの教材の構成

1. 学習の目標
章ごとの達成目標
2. 練習問題
3. 解答

8

学習の目標

- 例：第三章
- 生成文法と認知言語学の考え方の違いを理解する
- 普遍文法を構成する二つの要素の性質を理解する
- 日本語と英語から言語の変数を理解する

9

生成文法と認知言語学

例

- 生成文法：言語の自律性、計算（デジタル）
- 認知言語学：言語は人間の認知機能の一部、アナログ

10

練習問題

構成

1. 正誤問題
2. 穴埋め問題
3. 文章題（初級）
4. 文章題（中級）
5. （コーパスを使う問題）

11

コーパスを使った練習問題

- 問題 1

テキストとアノテーションに基づく樹形図の整合性がとれない

- > 初級の学習者に異なるコンセプトに基づく樹形図を提示すると混乱を招く。

12

コーパスを使った練習問題

- 問題 2
- 学習に適切なデータの提供の必要性
- アノテーションやデータの量が変わると随時問題を変えざるを得ない。

13

コーパスを使った練習問題

- 問題 3
- コーパスの操作に関する高度な知識を持っていることは期待できない
- 主に初級用のパターンブラウザーか？

14

コーパスを使った練習問題

- 問題 4
- 非文は出てこない。
- 例文の判断させる必要が出てくる
- 細かすぎる課題では例が出てこない。

15

コーパスを使った練習問題 I

- 実際の例
 - 「ばかり」構文
子供たちが遊んでばかりいる。
- 日本語に動詞句内主語仮説が当てはまることを示すタイプの構文

16

コーパスを使った練習問題

- コーパスの実例
- 太郎はテレビを見て[ばかり]いる。
- 失敗[ばかり]しています。

17

- 対決姿勢は強まる[ばかり]だ。
- 最近、このこと[ばかり]考えている。

18

- 10分[ばかり]待っていると、
- 大成功を収めた[ばかり]なのだ。

19

コーパスを使った練習問題II

- 基本語順
「が-に」語順
通常の動詞の基本語順
- しかし、存在動詞では
「に-が」が基本語順

20

- 基本語順でないものは少ない、あってもなんらかの理由がある。
- 存在動詞では、「に-が」が圧倒的に多いが、「が-に」の語順が現れるのは、ガ格名詞が定あるいは非常に長い場合が多い

21

「に-を」の場合

- 「に-を」が基本語順（ただし「を-に」と「に-を」が自由変異という主張もある）
- 「に-を」が「を-に」より多く現れる。

22

- 「を-に」語順は「子供を医者にする」のようなsmall clauseの場合に頻繁に現れる。（この場合の「に」はPではなく、コピュラ）

23

- (1) a. 子供を医者にする
b. ?*医者に子供をする
- (2) a. 子供に本を与える
b. 本を子供に与える

24

- (3) a. 子供を陽気に/美しくする
 b. *子供を陽気に/美しく与える

不定代名詞束縛 (Kishimoto 2001)

- (4) a. 誰を弟子にもしなかった
 b. *何を机にも置かなかった。

25

イディオムの問題

- 本が手に入る

「手に」はもともと場所句だが、指示的に用いられない

→ 「手に入る」は複雑述語とみるべき
 cf. Kishimoto and Kageyama (2013)
 “Japanese valency patterns”

26

- 「に-が」の格パターンとは別個に現れる

- (5) a. お金を手にする (=得る)
 b. 選手が監督に不満を口にする (=言う)

cf. Kishimoto (2008)

27

- (6) a. *手にお金をする
 b. *口に不満をする

cf. Jackendoff (1977)

28

英語版のテキスト

- 暫定タイトル
- Beginning Japanese Syntax: Key Concepts and Analysis
- 対象言語は日本語のみ (原則英語の例はなし)

29

英語版テキスト

- 15章+追加の5章 (approx. 140 pages)
- 日本語の構文や制約を説明する章を追加

1. 使役
2. 受身
3. ECM
4. 可能動詞
5. VN-する

30

英語版

- 英語版の練習問題
- かなりの部分は翻訳でOK
- 一部は新しく作成

31

今後の作業

1. テキスト用の練習問題の整備の継続
2. コーパスを使った練習問題
3. 英語版テキストおよびそれともなう練習問題の整備

32

- 日本語版用の練習問題はだいぶ完成、
- 英語版の練習問題はこれから

33

今後の作業

- 日本語版は、次回の増刷に合わせて、改訂版を作る。
- 英語版テキストは、来年度には原稿を完成（予定）、媒体は、出版社が紙（日本向け）およびKINDLE版（海外向け）が検討している。

34

まとめ

- 神戸大学ユニットの活動
- 教材開発から見える問題点
- 今後の展望

35

参考文献

- Carnie, Andrew. 2012. *Syntax: A generative introduction*. 3rd edition. Malden, MA: Blackwell.
- Jackendoff, Ray. 1997. *The architecture of the language faculty*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Kishimoto, Hideki. 2001. "Binding of indeterminate pronouns and clause structure in Japanese". *Linguistic Inquiry* 22: 597-633.
- Kishimoto, Hideki. 2008. "Ditransitive idioms and argument structure". *Journal of East Asian Linguistics* 17: 141-179.
- Kishimoto, Hideki and Taro Kageyama (2013) "Japanese (standard) valency patterns." In Hartmann, Iren, Haspelmath, Martin & Taylor, Bradley (eds.) *Valency Patterns Leipzig*. Leipzig: Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology.
<http://valpal.info/languages/japanese-standard>
- Radford, Andrew (2009) *Analysing English Sentences: A Minimalist Approach*. Cambridge: Cambridge University Press.

36